



JAPIC
NEWS

<http://www.japic.or.jp>

財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)

JAPIC NEWS

No.278

2007

6

Contents

■ 巻頭言

「ヒトの遺伝子の進化とその能力」

大日本住友製薬(株) 執行役員 三塩 晋作 2

■ インフォメーション

第128回薬事研究会開催案内 4

新薬承認審査報告書集「日本の新薬」21～25巻発行 4

「2006年医薬品製造(輸入)承認品目一覧」の発行 5

■ トピックス

JAPICサービスの紹介(5)「JAPIC WEEKLY NEWS」 6

平成19年度の事業計画 7

平成18年度事業及び収支状況の概要 8

■ シリーズ

東南アジアの医療事情(14) ミャンマー(3)

お茶の水女子大学 生活環境研究センター 客員教授 佐竹 元吉 11

■ 図書館だよりNo.204 15

■ 情報提供一覧 15

■ コラム

くすりの散歩道

結晶の話 日本製薬団体連合会 吉澤 潤治 5

売薬事業の奨励—富山藩主 富山県薬業研修センター 清水 昭治 10

編集・発行／財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15 長井記念館3階、5階 TEL.03-5466-1811 FAX03-5466-1814

e-mail:gyoumu@japic.or.jp URL:<http://www.japic.or.jp/>

ヒトの遺伝子の進化とその能力

大日本住友製薬株式会社

執行役員 三塩 晋作 (Mishio Shinsaku)

JAPIC 理事



今年の春、娘が大学をようやく卒業し無事就職して親として一安心しているところである。大阪を出て6年間鹿児島で学び、今度は北海道の動物病院で獣医として勤務することになり、本州の真ん中から南へさらに北へと移動しました。卒業間際実施される国家試験、卒業旅行、合格発表、新しい住居の決定、引越しそして卒業式とあわただしい日程をこなして旅立って行きました。この巻頭言が出るころは、少しは仕事に慣れ始めたころでしょう。

娘は私と同じ理科系の道を歩むようになったわけですが、私あるいは女房の遺伝子のどこが理科系への道を歩ませたのかと思いをはせています。良いところは自分の遺伝子、悪いところはあなたの遺伝子、と二人で押し付けあるいは取り合ってきましたが、後天的な外部環境の影響も考慮する必要があり、私たちの遺伝子の勝負はつかないようです。

さて遺伝子といえばその研究をはじめとする最近のライフサイエンスの研究の急速な進展には目を見張るものがあります。私は専攻が化学だったので製薬会社に勤め合成研究者としてスタートしその後部署はいろいろと変わりましたが、会社生活の大半を創薬に携わりました。研究員であった時代に比べこれらの遺伝子およ

び分子生物学的知識および科学技術の進展した現在のほうがよりすぐれた創薬がスピーディーにできそうです。しかしながら、過去の失敗の経験からの薬効・安全性・薬物動態・物性等に関するチェック項目が増え、また同種の薬剤と間の有用性が求められ、さらにグローバル開発が必要となり多くの時間とコストを要し、逆に創薬は難しくなっていると思われます。

遺伝子それ自体の研究をやったことはない私ですが、その研究動向に興味深く見守っております。遺伝子の研究が急速に進展したのは、最近の分光学的技術およびコンピュータ技術の急速な進歩によるものと思われます。様々な生物種のゲノム解析あるいは遺伝子から見た疾患解析が進行していますが、先端知識が増えればまた次に解明すべき課題が直ぐに出てくるようです。今私はこのゲノム解明と生物進化の解明との関連に興味を持ち幾つかの成書を読んでいます。まずは古典の入門書からと思いダーウィンの「種の起原」の岩波文庫を読んでみました。約150年前に書かれた本ですが、これが難解で何を言っているのかわからない。その当時の数多くの論文・学説が引用されており、そこまでは手が回らず残念ながら挫折です。もっと簡便な解説書・入門書からやり直しており、時代を超えたダーウィ

ンの偉大さがようやく理解でき始めたところです。

ダーウィンの「種の起原」は1859年に初版が刊行されており、2-3年後には恐らく150年記念事業が計画されるのではと思っています。進化という概念を作ったのは彼だと思っており、その代表的な自然選択説が今日修正されたり、いや基本は正しいとの議論があったり百花繚乱の議論が進行中のようです。このように読み進んでくると生命の進化と共に地球の歴史にも興味が湧いてきて、それらの最近の解明には、化石の発掘解明と分子生物学の寄与が大きく貢献していることがわかってきました。この約200-300年の間の地球の歴史についての解明の進捗には驚かされます。銀河系が誕生して約136億年、地球の歴史が約46億年であることがわかったのも最近ですし、生命の起原といえる細菌は35億年前、真核生物が15億年前そして哺乳類と爬虫類の祖先が3億年前ということもわかってきたようです。

一方、現存の生物についてのゲノム解析はそれぞれの種の系統樹相互関係解明に大きな寄与をしています。しかしながら、大きな幹となる種の間に関連進化を証明するためには数十億年あるいは数億年単位の時間の要素の障害は大きく、過去から現在までの連鎖を科学的に証明することを難しくしているようです。入手できる化石(地層)には全ての歴史が残っているわけではなく、また最新の分子生物学的手法が利用できる標本入手も(シベリアのツンドラを期待)一万年以内のようです。自然科学の納得性の論証には幾つかのアプローチはありますが、もっとも標準的な考えは、他のヒトが同じ実験をやっても同じ結果が得られるという再現性と仮説から予測の結果を明確にしてそれを客観的データで示すことです。進化との関連では長い時間の要素を加えてどのような検証ができるかが課題として残されています。

今、生命の進化にとって残された最も重要な課題の

二つは細胞の起原とヒトの意識の起原だそうで、この二つの課題解明に向けたアプローチがなされています。特にヒトが思考という特別の進化をもたらしたあるいは獲得したことは、ヒトという種にとって驚異的なことであつたと思われます。現存するあらゆる生命体は遺伝子によってその形質が受け継がれています。しかしヒトのみが遠い過去の出来事を記録し、学習し伝承していく能力を身につけました。古代文明を基点とする言語の作成とヒトの進化のスピードとは連動しているように思われます。われわれヒトのみが自身の獲得した知識・情報を言語の形で前世から学びまた後世に伝えています。ヒトのみが獲得した技術・知識そして知恵で、地球という自然環境を変えていく能力を持っており、この能力をさらに将来どのように使っていくかがヒトの大きな課題であります。

今5-6月は毎年新入生あるいは新社会人が新たな知識を身につける準備または社会人としての初期研修を終えようとしている時期でしょう。私の娘も研修を終え一人前の社会人としてスタートを切っています。大学を出たとはいえ、まだまだ先輩に学ぶことは多く、謙虚に話を聞き、やがて自分の個性を発揮していく知恵をつけ自分の将来の糧にして欲しいと思っています。人生の先達としての親の前もってのアドバイスの功罪もあり、娘はいろいろなことにぶつかり成長していくのだらうと遠くから見守っています。

Information インフォメーション

■ 第128回薬事研究会 開催案内

薬事研究会を下記により開催いたします。

昨年医薬品の治験や承認審査の迅速化について検討することを目的に厚生労働省の「有効で安全な医薬品を迅速に提供するための検討会」が設置されました。今回の薬事研究会では、新薬の迅速提供へ向けた取り組みについて、講演していただきます。多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

日 時	平成19年6月20日(水) 13:30～16:30
場 所	草月ホール(東京都港区赤坂7-2-21 草月会館地下1F) 03-3408-9113
参 加 費	資料費及び会場費等としてJAPIC会員1名 3,000円 非会員5,000円 当日会場でいただきます
申込方法等	JAPICホームページ(http://www.japic.or.jp)に掲載の申込入力フォームに必要事項をご記入の上、平成19年6月13日までに申し込み下さい。
[プログラム]	
13:35～14:50	「有効で安全な医薬品を迅速に提供するための取り組みについて」 (Q&A含む) 厚生労働省医薬食品局審査管理課承認審査等推進室長 山本弘史 氏
14:50～15:00	休憩
15:00～16:15	「国際共同治験のガイダンスについて」 (Q&A含む) 医薬品医療機器総合機構新薬審査第一部長 佐藤岳幸 氏

■ 新薬承認審査報告書集「日本の新薬」21～25巻発行

本書は独立行政法人医薬品医療機器総合機構で行われた新医薬品の承認審査の報告書(以下審査報告書)をまとめて編集したものです。平成18年1月～10月までに承認・公表された54成分を承認月順に収録したもので、21～25巻の5分冊にまとめました。

各巻は成分名の五十音順に配列され、訂正のある報告書については、前回同様本文中に修正前と修正後がわかるように編集してあります。昨年5月に発刊いたしました「日本の新薬」1～20巻(平成10年1月承認分～平成18年1月公表分をすべて収録し薬効別に編集したものです)に引き続いての刊行となります。

製薬企業ユーザーの新薬承認申請の際の参考資料として、大学の医薬品情報およびレギュラトリーサイエンス教育用の教材・資料としてご活用いただけましたら幸いと存じます。

価 格	B5版 1～25巻 各巻 23,100円(税・送料込) 1～20巻セット 231,000円(税・送料込) 21～25巻セット 57,750円(税・送料込) 1～25巻セット 288,750円(税・送料込)
購 入 方 法	JAPICホームページ入力フォームからお申し込みください。

■ 「2006年医薬品製造(輸入)承認品目一覧」の発行

JAPICでは、厚生労働省から日本製薬団体連合会を通じて医薬品の製造(輸入)承認資料を入手し、JAPICデータベース「SHOUNIN(ショウニン)」(更新月1回)でご提供しており、更に1年分をまとめて「医薬品製造(輸入)承認品目一覧」(1986年創刊)を作成しております。

この度、厚生労働大臣の承認に係る医薬品2006年分を掲載した2006年版を発行致しました。編集内容は、ご利用いただきやすいよう医療用(1365件)、一般用(578件)別に、それぞれ商品名の五十音順で配列しております。ご購入をご希望の方は、FAXにて下記宛にお申し込み下さい。

●会 員 10,500円/1部 ●非 会 員 21,000円/1部

問 合 せ 先 事務局 業務・渉外担当 TEL:0120-181-276 FAX:0120-181-461

くすりの散歩道 結晶の話

私がバイエルのアスピリンの話を聞いたのが何時頃のことであったか思い出せない。この話は『バイエルのアスピリンは良く効くが、他社のアスピリンは効きが悪かった。バイエル以外の会社ではその原因を研究し、結晶構造の違いにあることを突き止めたが、なかなかバイエルと同じ結晶構造のアスピリンを作ることが出来なかった。これこそバイエルの研究者の偉大な成果である。』といったものだったと思う。結晶構造が溶出動態に影響を与え、消化管内での溶出と吸収の挙動が、バイエルのものが最適であったのであろうと推定される。アスピリンは無水物、1水和物、1.5水和物および3水和物があり、これらの中で3水和物は安定であるが、その他の結晶は不安定である。このことから3水和物が医薬品となっているが、3水和物も乾燥条件によっては無水物や他の水和物になることから、乾燥工程に工夫が凝らされている。

私も結晶についての小さな経験を持っている。まだ若い頃に研究所で合成研究に従事していて、ある経口抗生物質の開発で合成の最終工程を確立する仕事に携わっていた。この抗生物質は通常の精製方法

では保存の安定性を確保することが出来ず、様々な精製方法を検討して純度を向上させたが、安定性を改善することが出来なかった。そこで、結晶の出し方を工夫して、じっくりと結晶を成長させる方法を開発したところ、抜群の安定性を確保することが出来た。こうして製造したバルクを用いて、日本での臨床試験に入ることができ、めでたく承認を取得して発売に至った。この種のことは、ほとんどの医薬品の開発で経験されていることと思う。

結晶形、溶媒和物、塩の種類などは、安定性、溶解性、吸収などに影響を及ぼす。これらは、医薬品開発の初期にプロセスリサーチの一環として研究される事柄で、創意・工夫が反映されるやり甲斐のある研究である。以上取り留めもない話でした。

吉澤 潤治 (日本製薬団体連合会)



T**opics**

トピックス

JAPICサービスの紹介(5)「JAPIC WEEKLY NEWS」

「JAPIC WEEKLY NEWS」とは

「JAPIC WEEKLY NEWS」は、製薬企業向けに有料で提供している外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する措置情報サービス「JAPIC Daily Mail」からの記事を抜粋し、主として医療機関向けに再録し、定期的にまとめて提供するサービスです。平成17年4月より、JAPIC会員の医療機関・大学を対象に無料で提供しております。現在、約90の会員機関が本サービスをご利用されています。

内 容

<厚生労働省・医薬品医療機器総合機構からの情報>

- 省令、通知(局長、課長)のうち医療、医薬品、治験などに関し重要なもの
- パブリックコメントを求めているもののうち医療機関に関係のあるもの
- 医療機器不具合の回収通知のうち「クラスI」に分類されているもの

<外国の行政当局等からの情報>

- 主として米国、カナダ、EUより発信される下記のものなど
- 医薬品および医療機器に関する安全性措置情報(警告、重要安全性情報、特に『枠囲み警告』のラベル改訂など)のうち日本でも発売されている製品に関する記事、または関心の高い記事。
- その他、医療機関や臨床医にとって関心のある記事など

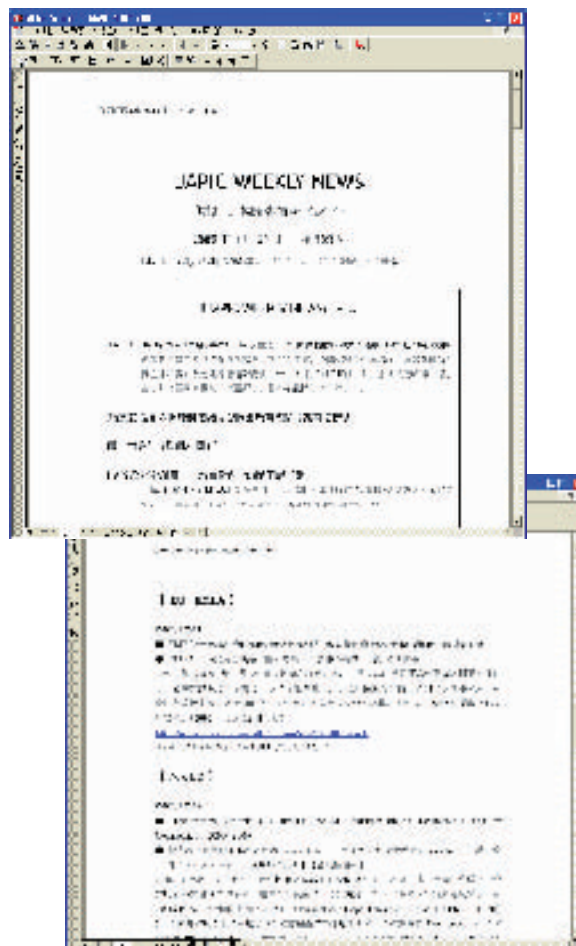


提供方法

毎週木曜に電子メールにて提供しています(PDFファイル添付)。

お問い合わせ・ご質問

- サービスに関しては業務・渉外担当
(Tel 0120-181-276)
- 内容に関しては医薬文献・海外情報担当
(Tel 03-5466-1824)



平成19年度の事業計画

1.基本的な考え方

平成19年度は第二期中期3カ年計画の最終年度であります。基本理念の「公益法人の使命を遵守し、透明性の高い運営を行い医薬品並びに関連情報の収集・提供を通じて会員とともに広く社会に貢献する」及び常に目標としている「ユーザに対し信頼される情報、使い易い情報を作り、広く普及して存在価値の高いJAPICにする」を今一度認識し、研究開発から市販後に至るまでの安全性や有効性に係る情報の提供に取り組んでまいります。

2.事業の実施に当たっての留意事項

- (1) 医薬品情報については、ユーザの要望が多彩になっています。これらに対処するためにユーザのニーズを的確に吸い上げ諸事業の改善を行い、特徴ある情報を収集・加工・提供すると共に業務自体を一層効率化してまいります。
- (2) 近年、情報の伝達・提供の手段が紙媒体から電子媒体へ急速にシフトしていますので、JAPICの諸情報も電子的媒体による提供の観点から内容の充実を検討し整備することが必要であります。例えば、JAPICが維持している添付文書関係のデータベースについては、更に付加価値を高めた情報提供の企画・立案を行います。
- (3) 今まで当財団は画一的なサービスが中心でありましたが、今後はそれに加えて顧客の要望に応じた対応も行っていく方針であります。例えば、主力事業であるQサービスは採択文献の内容を把握し易いようにキーワードを追加するとともに、ユーザの要望に則り個別に提供資料の加工を行う新サービスを開始します。

- (4) 会員数の増強については、未加入機関を訪問してJAPICの提供サービスの詳細な説明をし、勧誘を図るとともに、昨年度から設けた診療所・薬局向け会員(G会員)を更に増やしていきます。

3.平成19年度重点事業等

- (1) 添付文書関連情報データベースの整備と内容拡充・普及
- (2) 医療用及び一般用医薬品集並びに添付文書記載病名集の普及
- (3) 国内医薬文献・学会情報速報サービス(JAPIC-Qサービス)の充実
- (4) iyakuSearchの内容充実及び普及促進
- (5) 規制情報のweb送信
- (6) 研究開発情報の充実
- (7) その他:各種データベースの提供、医薬品類似名称の検索や調査サービスの実施、講演会シンポジウム等の開催

4.まとめ

本年度は、第二期中期3カ年計画の最終年度となったが、これらの重点事業を中心に改善・発展させ、第二次計画をまとめあげたい。

引き続き、会員をはじめユーザ、関係者の一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年度事業及び収支状況の概要

平成18年度は「第二期中期3カ年計画」の2年目であり、初年度の平成17年度に掲げた事業をさらに充実させるため6項目の重点事業を挙げ、その達成に取り組んできました。これらの重点事業の一環として、平成18年度新たに「医療用医薬品集更新情報のweb配信」、「一般用医薬品集2007」のJAPICによる編集・発刊、「日本の新薬」の発刊と「日本の新薬データベース」の公開等を実施し、一定の成果が得られたものと評価しています。

以下、事業及び収支状況の概要を報告します。

【事業概要】

1.JAPIC「医療用医薬品集」等の編集・発行、普及

JAPIC「医療用医薬品集」は2006年版からJAPICが編集・発行まで行い、丸善販売としました。2007年度版については9月に発刊し、普及に努めてきましたが、前年度より確実にJAPIC冊子の知名度がユーザーに浸透している感触を得ました。また平成18年10月より更新情報をwebで提供する新サービス事業を開始し、前年から行っている更新情報シール提供と共にユーザーへの便宜を図りました。

また、JAPIC「一般用医薬品集」を8月に発刊しました。本冊子は、医療用医薬品集と同様にJAPICが編集から発刊まで行いましたが、従来のものに比べて見やすくなったと好評を得ています。価格も17,000円から9,000円に大幅値下げをし、求めやすくしました。販売は医療用医薬品集との効果的な普及を期待し丸善としました。なお、一般用医薬品集に関するデータは、医療用医薬品集のデータと共にまとめてCD-ROMで提供しました。

2.添付文書データの内容充実と普及

「添付文書記載病名集」4月薬価改定版は平成17年末の刊行記念版に引き続き第2版として5月に発行しました。販売部数については十分に満足できるもの

ではありませんでしたが、今後さらに内容を充実させデータベースと共に普及に努めていきます。

3.iyakuSearchの充実と普及促進

iyakuSearchは無料（規制措置情報、医薬文献情報の一部を除く）で誰でも利用できる情報としてJAPICの公益活動を担う一面を持っており、医薬文献情報、学会演題情報、医療用医薬品添付文書情報、一般用医薬品添付文書情報、臨床試験情報を利用者に供しています。そして新たに学会開催情報及び新薬承認審査報告書のデータベース「日本の新薬」を加えました。また、諸団体、大学、企業等に積極的に出向き講演、実演を行うと同時に、学会等でも展示、デモンストレーションを行い普及に努めました。

4.国内医薬文献・学会情報速報サービス

（JAPIC-Qサービス）の改善

医薬文献・学会情報速報サービス（JAPIC-Qサービス）は利用機関数も140以上と順調に伸び、JAPICの主要な事業として財政面においても貢献しています。

5.JAPIC Daily Mailサービス

（外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報）の充実と普及拡大

平成13年5月から提供しているJAPIC Daily Mail

サービスの普及拡大に努め、ユーザー数が140以上となり順調に伸びてきました。

6.医薬研究開発情報の取り組み

平成18年5月に新薬承認審査報告書集「日本の新薬」冊子を発刊しました。本書は新薬承認審査報告書を薬効別に編集し直したもので、平成10年～平成18年1月公表分までを収録、全20巻、本文総ページ数は約11,200ページです。

また、10月にはこの「日本の新薬」のデータベース編をiyakuSearchのコンテンツの一つとして本リリースしました。

【収支状況概要】

平成18年度における収入の合計額は15.2億円、支出の合計額は14.6億円であり、収支差額は6千万円となりました。前年度1.1億円と比較すると黒字幅はやや低下しました。これは、「医療用医薬品集2007年版」が前年に比べて部数が伸びなかったことが主な要因です。一方で、管理費や「医療用医薬品集2007年版」にかかる印刷費を抑制しました。また支出の中には、減価償却引当預金、システム開発引当預金等、外部に出て行かない支出が2億円含まれており、一定水準の決算内容を確保できたものと評価しています。

平成18年度収支計算書 (単位:千円)

収 入	金 額		支 出	金 額		差引額	
	平成18年度	平成17年度		平成18年度	平成17年度	平成18年度	平成17年度
基本財産運用収入	1,120	565	事業費支出	996,759	949,791		
特定資産運用収入	51,291	—	管理費支出	147,644	227,923		
会費収入	473,191	477,324	その他支出	29,745	8,719		
事業収入	986,664	1,062,741	固定資産取得支出	89,023	76,890		
雑収入	4,984	22,409	特定資産取得支出	200,000	190,716		
特定資産取崩収入	6,642	—					
計	1,523,892	1,563,039	計	1,463,171	1,454,039	60,721	109,000

※公益法人会計基準の改正に伴い、18年度から一部科目の名称を変更しています。

くすりの散歩道

売薬事業の奨励—富山藩主 富山県薬業研修センター 清水 昭治

富山のくすり発祥の起源

時は元禄三年(1690年)暮れ、舞台は将軍家への謁見を待つ江戸城大広間「帝鑑(ていがん)の間」。突然の腹痛に苦しむ三春(現在の福島県)藩主・秋田河内守に、居合わせた富山藩主・前田正甫公が懐中の薬籠から取り出した丸薬「反魂丹(はんごんたん)」を与えたところ忽ち平癒し、それを目の当たりにした諸大名が、その靈験新たかなる妙薬を是非わが領内にも、と請願した一。

これが、三百有余年の歴史を有する「富山のくすり」発祥の起源の一説として知られる「江戸城腹痛事件」である。伝説の真意の程は意見が分かれるところだが、そこから富山の官民一体となった産業振興施策と、そうして育まれ医薬品製造・販売体制の確立が見えてくるように思う。

伝説の主人公・正甫公は、先代の急逝により二十七歳の若さで藩主の座に就いた新進気鋭の大名だったが、元禄期の度重なる冷水害など自然災害による藩財政の窮状に迫られ、領地外から職人を招いて伝統工芸の育成に力を注ぐ一方、薬草栽培と調薬の奨励を行うなど殖産興業に努め、財政再建に勤しんだ記録が残されている。その一端が、江戸城事件をきっかけにした全国各地での売薬事業。領民の土着を促し、領外への出入りを厳しく制限した江戸時代にあつては異例とも言える「他領商売勝手」の触れを出し、売薬行商を奨励するという画期的な施策をとったわけである。

官民連携

正甫公の手腕は、領外との技術的交流や人材確保・育成にも発揮されたという。妙薬「反魂丹」は、備前岡山の医師・万代常閑(もずじょうかん)家の一子相伝の家伝薬として受け継がれたものだったが、当家の遠縁に当たる薬種商・松井屋源右衛門(まついやげんえもん)に製法の伝授と技術指導を任せ、製薬面の充実を図る。その源右衛門は、若くして藩主となった正甫公の産業振興に大きな期待を寄せる有力な支持者であり、官民連携の推進者として大きな役割を果たすことになる。

販売の祖—八重崎屋源六

一方、妙薬を全国津々浦々に売り広めた販売の祖と称されるのが、八重崎屋源六(やえざきやげんろく)。売薬行商の規律を定め、教育に心血を注いで多くの人材輩出に手腕を発揮したとされる。

こうした先人の先見の明と「タレント」の存在が、三百有

余年に及ぶ医薬品配置販売業の伝統の礎となったのである。もちろん、こうしたインフラ整備の下に、製薬技術の向上と安定生産、品質確保に汗を流すとともに、交通網も確立されておらず、さまざまな危険に晒されながらも、全国各地へ命懸けの行商に赴いた数々の薬業人の地道な努力が、実を結んだことは言うまでもない。

「先用後利」商法

そして配置販売業の特徴と言えるのが「先用後利(せんようこうり)」という独自の販売理念である。直訳すれば「用を先にし、利を後にする」との意味だが、つまり得意先に預けた薬のうち使用した分の代金だけを後から請求するという、現在のクレジット販売にも通じるもの。医療が普及していない時代にあつて、いつ、どのような病気にかかり、どんな薬を使用することになるか分からない状況の中で、数種類もの薬を購入し、備蓄しておくことは、当時の多くの人々には経済的に不可能な話であり、そうした中で、先用後利の商法は地域の人々にすれば理想的なものだった。

「懸場帳(かけばちょう)」—顧客台帳

その反面、いつ、どれだけ使われるのか分からない中で、得意先に多くの薬を預け置くことは、配置販売業者にとって大きなリスクにもなる。そこで配置販売の生命線となるのが「懸場帳(かけばちょう)」の存在。これは、どの家庭にどんな薬が預けてあり、また、これまでどれだけ使用して頂いたかを記録する「顧客台帳」だが、それぞれの得意先の服用実績を掌握することが叶い、適した薬の配置や服薬指導の指標になる「データベース」でもある。いわば、マーケティング・リサーチを通じて、得意先のニーズに沿った「常備薬」セットをつくっていけることができ、預ける薬のロスも極力防げる形になる。同時に、得意先の情報管理を通じて、服用歴と商品構成を踏まえた情報提供が行えるわけで、アフターフォローにも有用な顧客データベースでもある。その存在は、先用後利の商法とともに、他の流通業から高い関心が寄せられている。

官民一体となった知恵と創意工夫や、画期的な販売システムを背景に営々と受け継がれてきた配置販売業。ただ、この業を語る時に忘れてはならないのが、得意先との長く継続的な取引であり、相互の信用と信頼の構築である。そこには、思い、思われる人と人との交流の歴史が横たわっている。

Series シリーズ

～東南アジアの医療事情(14)～



ミャンマー〔3〕

ミャンマーの日常生活

お茶の水女子大学 生活環境研究センター

客員教授 佐竹元吉(Satake Motoyoshi)



はじめに

ミャンマー(ビルマ)は、かつてイギリスの植民地、太平洋戦争による日本軍の進攻、第二次世界大戦終結後の独立といった歴史的経緯を経て、近年では民主化運動に対抗した軍事政策によりアメリカから経済制裁を受けている。入国にはビザを必要とし、行けない場所もある。現在は観光地のみ観光ビザが簡単に出るようになった。

ミャンマーの生活環境調査の研究課題は科学研究費で行ったものである。お茶の水女子大学の教授以下5名を現地調査に派遣し研究を行っている。シリーズ最後の今回は調査報告の一部を紹介する。()内は報告者の氏名である。

日常的衣類:ロンジー

ミャンマーでは男も女も皆、スカートのように“ロンジー”と呼ばれている布を腰に巻いている。ロンジーというのは、長さ2m、幅1m位の布である。両端を縫い合わせ、丸い筒にする。男性の穿き方は筒状の布の両端を引張り、それを一瞬に臍の前に持っていき、クルクルと廻して締める。締め先は袋状となり、タバコやお金などを入れる。チェック柄でシンプルな色が多い。女性の穿き方

は、男性と同様に筒状の布の両端を引張り、それをタオルのように腰に巻きながら要領よく形を作り、腰に巻く(右左の決まりは特でない)。よく緩む、慣れていない人のため、ひも付きの巻きスカートロンジーも売られている。また、ボタンや安全ピンで止めている人もいる。女性用のロンジーは色模様彩りで、各少数民族の所有柄模様もある。

ロンジーはミャンマーの日常生活の一部である。男性はロンジーを付けたままで腰掛けて小便する。女性はロンジーを胸まで上げて、水浴びをする。ロンジーは緩むたび、人前で締めなおすのも日常である。ミャンマーのような暑い国、ロンジーは涼しく非常に合理的である。(李宜融)



学生の制服は上に白衣で、下は緑色のロンジー、男女同じ

化粧なのか、日焼け止めか不明なタナカ

ミャンマー人の顔はとても綺麗。色は黒くなく、白くなく、顔は細めで目は大きい。すっきりとした顔立ちである。男性の身長は高くないが、お尻は小さくて、体は細く、ロンジーがとても似合う。顔にタナカを塗った女性の姿、ロングスカート(ロンジー)は実に魅力的である。とても興味深い異国情緒である。

生活文化としてタナカという顔に白い粉を着ける習慣がある。材料はミカン科植物の学名Murea exoticaで日本名は月橘、長柄蜜柑と呼ばれるものの枝である。丸木の直径5cmから20cmまで、長さも様々である。それを専用の丸い硯石で擦りながら水を加え、白い汁を作り出す。その汁を日本の白粉(おしろい)のように顔や頬、全身などに塗る。粉を固めたものもある。ローションのように瓶に入ったものもある。両頬に丸く渦巻き模様や四角い模様、女性はオシャレのために色んな模様の付け方に気を配っているようである。タナカは化粧品であるが、日焼け止めや虫除け、汗止めなどの役もあるようで肌の弱い小さい子によく顔中や身体中に塗っている。

女性と子供はタナカを付けているが、成年の男性は偶にしかタナカを付けない。

実際にタナカを付けてみたら、溶けた片栗粉のような



左上:タナカを塗った少女
右上:タナカを販売している専門店
左下:タナカの基原植物Murea exotica

感覚であった。最初は特に変わった感触や白い色も出てこなかったが、10分位経つとだんだん白くなり模様も出てくる、薄いパックのような感覚であった。

私が使ったのは粉状の既製品で、ほんのりライムの香りがある。帰国後も何回かタナカを使ってみた。ミャンマーで日焼けした肌を戻してくれたのはタナカのおかげかもしれない。(李宜融)

インレ湖の蓮織物

＜原料となる蓮＞

つぼみからピンク色で、葉(の厚み)は薄く、茎の下



蓮の繊維の取り出し方

部にはとげがないのが“本物”の蓮である。時期的に冬場には採集できない(途中インレ湖できれいな蓮の花と茎を数本採取して持っていったがそれはいわゆる偽ものだそうである)。

しかし、繊維を取り出してしまえばできた繊維集合体である糸は変わらない(本物の方が繊維をたくさん含んでいるとのこと)。

＜蓮の繊維の取り出し方＞

①数本まとめて5cmくらいのところの外側をキズ付けて折る②ひねり出す(指でおさえる)③指で撚りをかけながら40cm位つないでいく。

＜紡糸,染色,製織＞

すべて手回しの紡ぎ車で、紡糸する。染色は植物染料を使用する。織機は高機。透かしを入れたデザインのショールを織っていた。

＜特性＞

天然の素材で糸を紡ぎ布に織ることは世界各地で行なわれてきた。日本でも麻、藤、葛などの繊維を利用してきたが、いずれも原料からセルロース繊維を取り出すのは簡単ではない。たたいて灰汁で煮て柔らかくし、リグニンを除去するなど手間がかかり大変である。それに比較して蓮の繊維の取り出し方のなんと容易なことかと感心した。しかし価格は絹などに比較して高い。蓮の繊維ということで仏教徒にとっては大変有難く、付加価値がつくそうである。(駒城素子)

ミャンマーの飲用水

ミャンマーではあらゆる道路脇、店の軒先に誰でも断りなく飲むことのできる水が素焼きの壺(水瓶Yeoo)に入って設置されていた。ミャンマー第一の川、世界でも21位の長さのエーヤワディー川河岸では、水飲み場の水瓶が、井戸のそばで用いられる釉薬のかかった水壺などとともに、所狭しと売られていた。水瓶の上にはコッ

プが置いてあり、誰もが使用できるようになっていた。

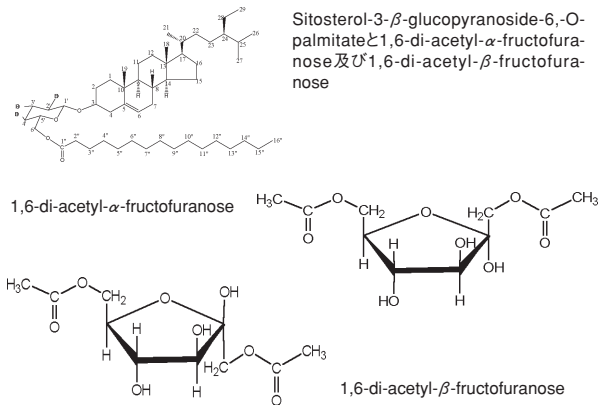
素焼きの壺は適度に水分を蒸発させるため、水温を低く保つために多く用いられているようだ。また、都市部ではボトルに入った水を飲用に提供している店もあった。これはミネラルウォーターで、店ごとに購入するようだ。ミネラルウォーターの産地は確かめなかったが、深井戸の水質検査済みのところからのもののようなのだ。

今回の測定結果より、ミャンマーの飲用水中には糞便由来の病原細菌が存在する可能性がかなり高いことが確認された。

ミャンマーでの水や食物を介する病気の発生は、1995年に208,490件、491人の死亡者(全人口4392万人)であった。これは、日本の1995年における食中毒発生病件数は699件、死者数5人(全人口12557万人)よりかなり高い確率で発病し、死亡率で比較すると日本の280倍にもなっていた。水や食物を介する病気の一因には、水の細菌学的安全性が欠けていることも挙げられると推測された。(富永典子)

野生のコンニャク芋

ミャンマーは世界有数の天然資源保有国であるが、十分な資源調査はなされていない。国内外で広く消費されているコンニャク芋(Amorphophallus konjac K.Koch)は日本では国内産業の保護のため貿易関税が高く設定されていたが、本年(2007年)から廃止されることになったので、日本の市場への輸出が期待される。本学の学生に野生地でコンニャク芋を採集して、調整加工する工程を体験させた。コンニャクは整腸作用などで知られるグルコマンナンが主成分で、D-GlucoseとD-Mannoseが多数結合し、人は消化できない食物繊維があるので、健康食品、ダイエット食品として注目されている。この学生がマンナン以外の成分研究を行い3種類の化合物を単離した。(室塚)



おわりに

天然資源の豊富なミャンマーは経済的には鎖国状態のため色々の制限がある。一番大切な電気の供給が十分に無い点が国民に不満ようです。日本からのODA援助も、し難い現状である。われわれの出来る身近な援助からミャンマーの復興に日本も貢献したいものである。(完)

ミャンマーは今回で終了します。次号からインドネシア共和国を連載します。

コンニャク採集記(室塚)

野生地:ミャンマー北部,海拔1800m 写真提供:李



野生コンニャクの採集



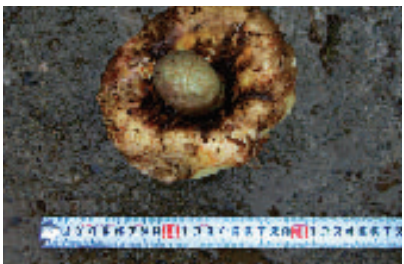
野生コンニャクの掘り起こし



コンニャクの収穫物



洗浄



根茎:幅:14.5cm 高さ:10.5cm



乾燥するためにスライス作り



乾燥するためにスライス作り



庭先で乾燥



採ってすぐ乾すほど白く出来上がる,白い=良質

【新着資料案内ー平成19年4月16日～平成19年5月11日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館(電話03-5466-1827)までお越し下さい。

＜配列は書名のアルファベット順＞

書名	出版社名	出版年月	ページ	定価
Compendium of Pharmaceuticals and Specialties (CPS) 2007 —The Canadian Drug Reference for Health Professionals 一著者名/Canadian Pharmacists Association	Canadian Pharmacists Association カナダ薬剤師会により医療従事者用に編集・発刊されたカナダの医療用医薬品集	2007年	3,073p	¥43,610
一目でわかる医薬品と飲食物・サプリメントの相互作用とマネジメント 改訂版 著者名/大西 徳明 編著	フジメディカル出版	2007年4月	251p	¥3,990
改訂 医薬品添加物ハンドブック 著者名/日本医薬品添加剤協会 訳編	薬事日報社 Handbook of Pharmaceutical Excipients Fifth Editionの翻訳版	2007年4月	1,146p	¥29,400
抗菌性物質医薬品ハンドブック 2000 著者名/日本抗生物質学術協議会 編	じほう	2000年8月	617p	¥22,000
厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合評価研究事業 国際的動向を踏まえた医薬品の新たな有効性及び安全性評価等に関する研究 平成18年度総括研究報告書 著者名/主任研究者 上田 廣二	(財)東京都保健医療公社 多摩北部医療センター	2007年3月	98p	
厚生労働科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業 片頭痛に対する画期的治療法の開発に関する研究 平成18年度総括・分担研究報告書 著者名/主任研究者 坂井 文彦		2007年3月	192p	
L'Informatore farmaceutico 2007 67 edizione 著者名/Elsevier Masson	Elsevier Masson	2007年	5分冊	¥76,608
日英対訳 原典収載 GMPICH医薬用語事典 著者名/仲井 由宣	じほう	2007年1月	227p	¥3,150
最新 日本歯科用医薬品集 著者名/日本歯科薬物療法学会 編	永末書店	2007年2月	390p	¥5,250
世界の医薬品産業 著者名/吉森 賢	東京大学出版会	2007年3月	297p	¥4,410
歯科医療の安全管理 支援いたします!-実例に探る日常臨床のチェックポイント 著者名/杉崎 正志 編著	ヒューロン・パブリッシャーズ	2007年4月	155p	¥6,300
新医薬品として承認された医薬品について (平成19年4月18日) 著者名/厚生労働省医薬食品局審査管理課	厚生労働省医薬食品局	2007年4月	1p	
新医薬品等の再審査結果 平成18年度(その5)について 著者名/厚生労働省医薬食品局長	厚生労働省医薬食品局	2007年3月	2p	
新医薬品等の再審査結果 平成18年度(その5)に係る訂正について 著者名/厚生労働省医薬食品局長	厚生労働省医薬食品局	2007年3月	2p	
薬疹情報 第12版 1980-2006 著者名/福田 英三 編	医療法人FDC 福田皮膚科クリニック	2007年4月	535p	¥5,000

情報提供一覧

平成19年5月1日から5月31日の期間に提供しました情報は次の通りです。
出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局業務・渉外担当(TEL.03-5466-1812)までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	データベース一覧	更新日
＜出版物等＞		＜iyakuSearch＞	http://database.japic.or.jp/
1.「医薬関連情報」5月号	5月25日	1. 医薬文献情報	月1回
2.「Regulations View Web版」No.141	5月25日	2. 学会演題情報	月1回
3.「JAPIC NEWS」No.278	5月25日	3. 医療用医薬品添付文書情報	月2回
4. JAPIC「医療用医薬品集」2007 更新情報2007年5月版	毎月末日	4. 一般用医薬品添付文書情報	随 時
5.「2006年医薬品製造(輸入)承認品目一覧」	5月1日	5. 規制措置情報	毎 日
6.新薬承認審査報告書集「日本の新薬」21～25巻	5月7日	6. 臨床試験情報	随 時
＜速報サービス等＞		7. 日本の新薬	随 時
1.「医薬関連情報 速報FAXサービス」No.584～587	毎 週	8. 学会開催情報	月2回
2.「医薬文献・学会情報速報サービス(JAPIC-Qサービス)」	毎 週	＜JIP e-infoStreamから提供＞	https://e-infostream.com/
3.「JAPIC-Q Plusサービス」	毎月第一水曜日	1.「JAPICDOC速報版(日本医薬文献抄録速報版)」	月1回
4.「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス(JAPIC Daily Mail)」No.1456～1476	毎 日	2.「JAPICDOC(日本医薬文献抄録)」	月1回
5.「感染症情報(JAPIC Daily Mail Plus)」No.189～192	毎週月曜日	3.「ADVISE(医薬品副作用文献情報)」	月1回
6.「PubMed代行検索サービス」	毎月第一・三水曜日	4.「MMPLAN(学会開催予定)」	月1回
7. JAPIC「医療用医薬品集」2007更新情報メールサービス2007年4月版	毎月10日	5.「SOCIE(医薬関連学会演題情報)」	月1回
		6.「NewPINS(添付文書情報)」(月2回更新)	月2回
		7.「SHOUNIN(承認品目情報)」	月1回
		＜JST JDream IIから提供＞	http://pr.jst.go.jp/jdream2/
		「JAPICDOC(日本医薬文献抄録)」	月1回